

地域母子保健福祉情報紙 No.270

公益社団法人 母子保健推進会議

親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的（抜粋）
国及び地方自治体
関係諸団体と連携協力して
母子保健の重要性を啓発し
母性の健康を守り たかめ
心身ともに健全な児童の
出生と育成に寄与してまいります

子ども虐待予防の視点からの親子への支援

事故でも虐待でも

支援が必要な親子である認識を
公益社団法人 母子保健推進会議

会長 佐藤拓代

子どもの虐待を予防し、それでも起こってしまった時には早期発見することが、親と子どもに接する方に求められています。

母子保健では、健康診査など地域で生活するすべての親子に接する機会があるので、不幸にも虐待が起こってしまったとき、どうして見つけれなかったのかと責められることも多いかと思います。報道によると、虐待の通報があつて駆けつけたが「服を脱がせるタイミングがなく、（虐待の痕を）発見できなかった」という事件がありました。

これまで関わりのない人間が、突然服を脱がせるのは困難でしょう。衣服で覆われているところまで見るには親になんと言ったらいいのか、怒られてしまうの

ではないか、など躊躇したのかもしれませんが。また、傷を確認できたとしても、親が「階段から落ちた」など事故というかも知れず、その場で虐待と判断するのは難しいことです。

子どもに問題が起きて親が困っているから助けるスタンスが重要

泣き声があり通告されたのであれば、「どこか痛いところがあるのかもしれない。調べてもらおう」といい、「親では気がつかないあざや骨折ができる病気が隠れているかもしれないので、お医者さんに診てもらいましょう」と連れ出すことができます。「子どもに何かが起こっているのだから親が困っていることでしょう。親を助けにきました」が受け入れてもらい易いのです。

顔見知りの地域の支援者は、より、親を悪者扱いしないで子どもに何かが起こっている、だからこのように子どもを

扱いにくくしているのだというスタンスが重要です。つつい専門職はそこで判断して起こっていることを見極め指導し



佐藤拓代会長

ようとしますが、これでは、親は指摘されることから逃れようと、本当のことを打ち明けません。

日々変わる困りごと、親子の関係

親に共感し一緒に考える姿勢を

問題のある親子を把握しようと、詳細なアンケートを行ったり、面談からアセスメントの項目を把握しようとしても、その時点での子育ての問題に過ぎません。1日たりとも同じ日がないように、子育てにも同じ日はなく、日々パートナーや自分の親との関係、経済問題、子どもの発達への対応など、誰にでも困ることがあるという視点が重要です。この日々の困りごとへの支援は、支援者が問題を把握するより、親が相談してくれる関係性をつくることでこそ可能にな

今月のページ

子ども虐待予防の視点からの親子への支援	1～3
紙上セミナー：8020の里づくり 「小児期から始めましょう！早め早めの歯周病対策」	4～5
こんにちは母子保健課です：令和3年度母子保健対策関係予算案の概要	6～7
「8020の里賞（ロツテ賞）」ご応募受付中／編集帖	8